

JICA ボランティア 現地レポート



青年海外協力隊 平成23年度3次隊 泉田 裕章
出身地：大熊町
派遣国：パプアニューギニア
職 種：理数科教師



配属先のマヌス・セカンダリー・スクールはマヌス州の進学校にあたり、Grade 9～12 (日本の中学校3年生～高校3年生にあたる)の生徒が約650人(うち寮生が約300名)、教員30名で構成されています。

Grade9とGrade10はA～Eクラスまで、Grade11とGrade12はA～Dクラスまであり、1クラス35名前後の生徒がいます。月曜日から金曜日まで、1日40分の授業が8時間目まであり、1年間が4学期に分かれています。

1時間目から4時間目が終わるまで、休み時間はありません。4時間目が終わって、30分の休憩。また、5時間目から8時間目が終わって給食の時間になるまで休み時間はありません。私は今、Grade9の数学、Grade11のコンピュータのクラスを担当しています。

学校の生徒、先生はもちろん、マヌス島の人はほとんどフレンドリーです。多くの人々がJICAボランティアのことを知っていて、笑顔で挨拶し、握手をして会話が始まります。日本に興味がある人が多く、もちろん、東日本大震災のことや、津波、原発、福島県のことも知っていました。「親や友達は無事だったか?今はどうしてる?大変だったな」と、とても心配してくれます。赴任して1年が経ちました。この国やこの学校のため、子ども達や先生のため、私にできることをすべてやっていきたいと思っています。



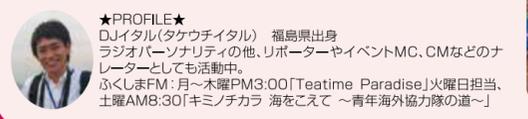
私が赴任時に朝礼で挨拶をしている所です。朝礼は毎週3回(月・水・金)あり、国歌を歌い、校長先生の話をお聞きします。



パソコンの演習の授業の様子です。パソコンの台数も、演習時間も十分ではありませんが、一生懸命取り組んでいます。

JICA 地方マスメディア派遣プログラム ふくしまFM、セネガルへ行く。

JICAには、マスメディアを途上国へ派遣し、日本やJICAの行う途上国支援の現場取材し、帰国後、見聞した情報を発信していただくマスメディア派遣制度があります。今年度は、JICA二本松の広報番組「キミノチカラ、海をこえて～青年海外協力隊の道～」を放送中のふくしまFM(株式会社エフエム福島)から、番組パーソナリティとしておなじみのDJイタルさんを含む2名が巻頭の「教師海外研修」の先生方と共にセネガルへ渡航しました。いつもは開発途上国で活動してきたみなさんのお話を日本で聞く立場だったイタルさんですが、実際に現地へ赴き、何を思ったのでしょうか?



子どもたちの笑顔

「アフリカに行きませんか?」そんな話を聞いたのは昨年の春頃でした。ふくしまFMでJICAの番組が始まったのも、ちょうどその頃。今までテレビで見る話や、本や新聞で読む話、経験者の言葉で、番組で語られる。自分の知らない世界に、すごく新鮮で興奮しました。そして番組が始まって7ヶ月、人生初のアフリカ取材が実現したのです。気候も、人柄もあたたかいセネガルで、沢山の人の出迎えました。番組で聞いた話が、実際に自分の目の前になる。世界が近づいた気がしました。自分の目でみる協力隊の活動は、実は放送にのらない話や、見えないコトの方が遙かに多い。数字やグラフに置き換えられない活動が沢山あるのです。隊員それぞれが、そこで生活し、そこで会話をし、そこに生きている。青年海外協力隊の一番大切な活動、それは「共に生きること」。それぞれの小さな活動があって、青年海外協力隊があるのです。

福島県にゆかりのあるJICAボランティア

平成24年度 4次隊 (2013年3月出発)

青年海外協力隊 重野 友紀 さん

学生時代より、国際協力の仕事をしたいと夢見ていました。研修所での訓練、現地での生活を通して、任国のお役に立てるよう努力して参ります。帰国後は、協力隊の経験を活かし、日本を元気にしていきたいです。

出身地：福島市
派遣国：エルサルバドル
職種：環境教育

青年海外協力隊 栗村 友紀乃 さん

幼いころから協力隊に興味を持っていました。今、夢を叶えるために訓練をしています。任国ではたくさんの人と触れ合い、笑顔のある活動にしたいと思っています。

出身地：会津若松市
派遣国：ペルー
職種：栄養士

福島県出身者や福島で学んだ、働いていた方などを紹介します。
①出身地 ②派遣予定国 ③職種

福島県出身JICAボランティア 2013年1月31日現在

合計派遣中 42名 / 累計 639名

青年海外協力隊員数	
派遣中	37
累計	580

日系社会青年ボランティア数	
派遣中	0
累計	8

シニア海外ボランティア数	
派遣中	4
累計	46

日系社会シニアボランティア数	
派遣中	1
累計	5



Information

平成25年度 JICAボランティア春募集のご案内

募集期間 4月1日～5月13日(消印有効)
4月より、平成25年度のJICAボランティア春募集が開始になります。今年も県内各地で募集説明会を開催します。各会場では、映画の上映会やパネル展、JICAスタッフや協力隊経験者による個別相談も実施していますので、どなたでもお気軽にお越しください!(申し込み不要・入退場自由) ※4/21(日)二本松会場のみ要申込

説明会日程

場 所	日 程	会 場	時 間
福島	3月24日(日)	コラッセふくしま 4F 中会議室401	14:00～17:00
会津	3月31日(日)	会津アピオスペース 2F 会議室	14:00～18:00
いわき	4月 7日(日)	LATOV(ラトフ) 6F セミナー室AB	14:00～18:00
郡山	4月14日(日)	ビッグアイ 7F 大会議室	14:00～17:00
二本松	4月21日(日)	JICA二本松 A会議室	11:00～17:00

オ ス ス メ

■福島会場・郡山会場
映画上映会 ～途上国の現状を知ろう!～
上記2会場の説明会では、開発途上国をテーマにした映画を上映します。貧困やグローバリゼンに伴う経済格差など、普段見聞する問題について映画を通して学んでみませんか?
詳細についてはJICA二本松ホームページをご確認ください。

3月～4月のイベント情報

3月14日(木)	平成24年度4次隊 派遣前訓練 修了式
4月 1日(月)	平成25年度JICAボランティア春募集 受付開始
4月10日(水)	平成25年度1次隊 派遣前訓練 入所式

所長 着任のご挨拶

JICA二本松 青年海外協力隊訓練所 所長 北野 一人
14年半振りに二本松訓練所に戻って参りました。また安達太良山を拠点に福島県内で仕事ができることを心から楽しみに感じています。以前、訓練所で勤務したときの大きな違いは、今、福島県は東日本大震災からの復興のさなかにあるということです。私たち訓練所とここで訓練をして世界に羽ばたいていく協力隊が世界の発展と福島のために何かができるのかを一生懸命考えていきたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。



キミノチカラ、海をこえて～青年海外協力隊の道～ Saturday 8:30-8:55
JICAボランティアとして世界各地で活躍された福島県内在住の方々をゲストに迎え、参加の動機や派遣国での様子、ボランティア経験を帰国後どのように活かしているのかなど、異国の音楽を交えながらお送りします。
☆番組ブログ、Facebookも随時更新☆
福島・郡山 81.8Mhz 会津 82.8Mhz
原町・いわき 78.6Mhz 白河 79.8Mhz
キミノチカラ、海をこえて

独立行政法人国際協力機構 二本松青年海外協力隊訓練所

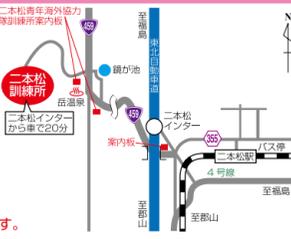
〒964-8558 福島県二本松市永田字長坂4-2 TEL.0243-24-3200 FAX.0243-24-3214

募集・広報担当 E-mail: jicanjv@jica.go.jp JICA二本松

「あだたら」バックナンバーがWeb上でご覧になれます URL <http://www.jica.go.jp/nihonmatsu/office/pr.html>

読者の皆様へ
福島県内の小・中・高・大学等、会社、団体で行っている国際協力活動を紙面でご紹介します。情報をお寄せください。
JICA福島デスク
〒960-8103 福島市舟場町2-1 電話 024-524-1315
公益財団法人 福島県国際交流協会内 FAX 024-521-8308
Email: jicadpd-desk-fukushimaken@jica.go.jp
※本誌に関するお問合せは、上記「JICA福島デスク」(ハ巻)までよろしくお願いたします。

JICA二本松へのアクセス



二本松青年海外協力隊訓練所 ニュースレター

あだたら



教師海外研修でセネガルの地へ (P2)

秋・冬のイベントレポート号!

- P2 教師海外研修 in セネガル
- P3 中学生・高校生が考える“国際協力”

教師海外研修 in セネガル



JICAでは、開発途上国支援の経験と知見を日本の教育現場で活用していただけるよう、教育関係者を対象とした研修を実施しています。今年度、JICA二本松からは県内の小・中・高等学校の先生方8名が、アフリカのセネガル共和国へと研修に向かいました。実際に参加された先生より感想をいただきました。



セネガル共和国
面積：日本の約半分
人口：1,310万人
首都：ダカール
言語：フランス語(公用語)
ウロフ語など
各民族語
宗教：イスラム教95%
キリスト教5%
伝統的宗教



二本松市立小浜中学校
＜研修団長＞ 伊藤 正浩 先生

アフリカの西の端にあるセネガル。冬なのに、日中は気温30度以上で、強い日差し。ただ、朝夕は涼しく長袖が必要なくらいだった。セネガルでとても印象に残っているのは、人々の目がキラキラ輝いていたことだ。小さな村の道を青年海外協力隊員と一緒に歩いているとたくさんの方が、声をかけてくれ、握手攻めだった。どの人も人なつこく、その目は輝いていた。高校に行っても同じだ。先生の質問に、指を鳴らし、手を挙げる生徒の目も、キラキラと輝いていた。また、協力隊員達の目は、それよりも輝いていた。

福島県立相馬農業高等学校飯館校
阿部 健太郎 先生

地図帳で見るセネガルは日本からかなり遠い距離にあります。しかし、1週間という短い期間ながら滞在できたことで、今では大変身近に感じる場所になりました。セネガルでは「あいさつ」が大事にされています。私も滞在中に「あいさつ」をしました。中でも「アッサラームアレイクム」と「フレイクムサラーム」は数え切れないほどしました。「あいさつ」をしっかりとすることで相手との距離は縮まるのだなと感じました。今セネガルを身近に感じられているのは、気持ちの良い「あいさつ」をたくさんしてきたからなのだろうなと思っています。

二本松市立旭小学校
菊池 直樹 先生

今回の教師海外研修を通して、大きく実感したのはアフリカ=貧困ではないということです。アフリカというところで、飲み水や食料が十分でないというイメージをもってしまいます。確かに日本に比べると生活水準は低い部分もあります。しかし、だからといって、彼らが貧しいかと言ったらそうではありません。実際にセネガル人と話したり生活したりしていく中で、彼らの温かさを感じることができました。今回感じてきたこの感覚を国際理解教育に生かしていきたいです。

学校法人石川高等学校石川義塾中学校
窪木 奈美 先生

セネガルの人々を一言で表現するなら「たくましい!」だと思います。日本の生活と比べて電気や水、食料など生活に必要なものが十分にない中で、毎日互いに助け合って生活しており、人々がどうともまぶしく映りました。食べ物がない人にはすすんで分け合うという文化があるということも知り、心の豊かさは日本人以上ではないかと感じました。この研修をとおして、現代の日本に欠けている大事なことに改めて気づかされたような気がします。

福島県立双葉高等学校
長池 裕美 先生

今回の研修ではダカールだけでなく地方の都市を視察させていただいたことが良い経験になりました。その中でも魚の加工場の見学がとても印象的でした。イスラム社会では女性の立場が弱い印象があるなかで、女性たちがパワフルに働き、国内だけでなく近隣諸国にも製品を輸出していたことには驚きました。また、セネガルでは多くの青年海外協力隊の隊員さんが活躍されており、住民の方々とともに活動している姿に刺激を受けました。研修で見聞したことをご報告させていただきます。

福島県立いわき光洋高等学校
長岡 蘭美 先生

セネガル研修が私にとって初めての海外進出でした。国際理解に興味はあっても何一つ体験したことのない理科教員の私。こんな右も左も分からない私を、一緒に行った皆さんや現地のJICAの方は優しくフォローしてくださり、何とか無事に研修を終えました。このような機会を与えてくれたことも含めて、皆さんに感謝しています。セネガルの印象は、陽気で明るく、のんびり。人々の笑顔が素敵で、強さたくましさも感じました。ずっとずっと忘れられない国です。帰ってきた私に「長岡さんはアフリカが似合うね」と言ってくれた人がいました。私はそれを最高の褒め言葉と受け留めています。

只見町立朝日小学校
橋本 哲典 先生

朝8時なのに暗い街。12月なのに40℃。行き交う車に混じる馬車の姿。立ち並ぶビル。頭に荷物をのせて歩く人々。私の思い描いていたアフリカの姿と近代的な姿に戸惑いを感じる。現地で作った民族衣装を着て市場へ行き、ウロフ語で挨拶を交わす。何を言っているかわからないが、好意は伝わってきた。日本人の私がセネガルの衣装をまとうことで、更に友好的に接してくれたのだろう。相手の国の文化を受け入れ、更にこちらから発信することで、気温差50℃の大地で熱い交流ができた気がした。

郡山市立富田中学校
山崎 由起子 先生

首都ダカール到着時から、五感に刺激され続けました。郷土料理やお茶など一度も飽きることなく食を楽しみ、独特なバスや馬車が多く走る街並みや自然のパワーを感じさせられたバオバブの木等に魅せられ、漁村で発酵された魚の臭いが体中に染みつき、田舎ではよく出会うロバの意外な声や初めての言語ウロフ語など初体験だらけでした。そして、どこでもあいさつを笑顔で返してくれる現地の人々と沢山握手をし、とても輝いていた青年海外協力隊の方々にはパワーをもらってきました。これらの体験を少しずつ伝えていきたいと思っています。

ユース国際協力ミーティング2012

11月17日、18日にJICA二本松でユース国際協力ミーティング2012が開催されました。このイベントは、県内の高校生を対象に、「世界の現状を知る」ことからはじめ、自分たちができる「国際協力」への関わり方を考えることを目的としています。

7つの講座で構成された2日間。各講座の講師は、「ふくしま青年海外協力隊の会」(※)の皆さんが担当し、開発途上国で実際に経験して学んだことを、様々な活動を通して参加者たちに伝えました。

参加者からは、「実際に体験した話や、写真・映像を見ることで、テレビや教科書より世界の現状をリアルに感じる事ができた」、「同じ年代の人と国際協力について考えるという経験はなかなかなく、同じ年代でも考えていることは皆違っていて様々な意見を知ることができ、とても有意義なものにできた」などの声が寄せられました。

※ふくしま青年海外協力隊の会…主に福島県出身者による青年海外協力隊経験者が組織する団体。



◀「インターナショナル運動会」では、日本人チーム対エジプト人チームに分かれて運動会をし、異文化や相互理解について考えました。



▶メキシコのストリートチルドレンの姿から考える「本当に必要な支援」とは?



◀2日間を共に過ごした仲間たち。これからの時代を担うみなさん、それぞれの夢に向かって、がんばって!

中学生・高校生が考える“国際協力”

JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2012

本コンテストは、次の世代を担う全国の中学生・高校生を対象に、開発途上国の現状や開発途上国と日本との関係について理解を深め、国際社会の中で日本、そして自分たち一人ひとりがどのように行動すべきかを考えることを目的として実施しています。

今年のテーマは「これからの日本、これからの世界—私たちができること—」。
厳正なる審査の結果、県内では、下記の学校・みなさんが受賞されました。受賞された皆さん、おめでとうございます。

中学生の部

【独立行政法人国際協力機構
二本松青年海外協力隊訓練所 所長賞】
「祖父とタイの学校」
白河市立白河第二中学校 3年 安澤 拓海さん

【佳作】
「ホームステイで学んだこと」
学校法人ザベリオ学園郡山ザベリオ中学校 2年 真田 理美さん

【ふくしま青年海外協力隊の会長賞】
「五十円で救える命」
学校法人ザベリオ学園郡山ザベリオ中学校 2年 浅野 雄大さん

「国際交流で学んだこと」
須賀川市立第二中学校 2年 杉原 万彩さん

【特別学校賞】
福島市立北信中学校、郡山市立郡山第一中学校

【学校賞】
福島市立岳陽中学校、福島市立福島第三中学校、田村市立移中学校、会津若松市立第五中学校、いわき市立平第二中学校、いわき市立上遠野中学校

高校生の部

【独立行政法人国際協力機構
二本松青年海外協力隊訓練所 所長賞】
「今、できること」
福島県立福島高等学校 1年 前川 日菜子さん

【ふくしま青年海外協力隊の会会長賞】
「夢をもつこと」
福島県立あさか開成高等学校 3年 山口 愛さん

【特別学校賞】
福島県立あさか開成高等学校

全国応募総数
〈高校生の部〉 28,736通
※福島県683通
〈中校生の部〉 44,459通
※福島県1,519通

※全国の実績(校)は「地球ひろば」のホームページからご覧いただけます。
<http://www.jica.go.jp/hiroba/menu/essay/index.html>



まだまだあります! 秋から冬のイベントレポート

地域のお祭りに参加しました!

地域の皆さんに、もっとJICA二本松やJICA事業を知っていただくこと、県内各地で行われた様々なお祭りにJICAブースを出展しました。(※)各会場のブースでは、JICA二本松スタッフによる世界の国々に関するクイズや、福島県出身の青年海外協力隊の活動紹介などを行いました。特に、JICA二本松の地元・二本松市で開催された日本三大提灯祭りのひとつ「二本松ちょうちん祭り」では、「世界クイズ」や民族衣装の試着で大盛況となりました。各地で声をかけてくださった皆さん、ありがとうございました。
※参加したお祭り(開催日順)→結ゆい・フェスタ2012(9/23)、二本松ちょうちん祭り(10/4~6)、会津若松国際交流フェスティバル2012(10/13)、国際にこにこ祭り(10/27)、福幸祭(11/3)



クイズで盛り上がる二本松ちょうちん祭りのJICAブース

STAND UP! JICA二本松がフォトコンテスト入賞



受賞した作品。朝の青空に向かって、STAND UP!

STAND UP TAKE ACTIONは、世界貧困デー(10月17日)前後に、貧困解決を求める意思を示すために「立ち上がり(STAND UP)」、「行動する(TAKE ACTION)」ことを呼びかける、貧困解決のための世界的キャンペーンです。世界各地でSTAND UPし、貧困解決の意志をしめした様子を写真に収め、1つの「声」をつくります。JICA二本松では、このキャンペーンに参加し、「ご当地」スタンドアップフォトコンテストにて入賞しました。
※STAND UP TAKE ACTIONについて URL <http://www.standup2015.jp/>

JICAボランティア帰国報告会・ 留守家族連絡会

1月19日(土)に二本松市民交流センターにて、福島県出身者や、帰国後福島で活躍されている元JICAボランティア3名(フィリピン派遣・自動車整備・菅野良浩さん、チュニジア派遣・作業療法士・清山真琴さん、パナマ派遣・農業生産技術・森田久夫さん)による帰国報告会が行われました。また、当日は現在派遣中のJICAボランティアのご家族を対象にした留守家族連絡会も開催され、関係団体からの支援体制についての説明や、協力隊経験者との懇談を通じ、ご家族は、より一層活動への理解を深めました。



パナマでの活動報告をする森田さん

被災地支援ボランティア in 南相馬市 12月14日、15日



JICAボランティアとして被災地の現状を知り、世界へと羽ばたきます。

二本松、駒ヶ根(長野県)の両訓練所では、訓練終了時に東日本大震災の被災地支援を目的としたボランティア活動を奨励しています。今回も南相馬市社会福祉協議会を通じて、27名が津波被害を受けた地域での家屋清掃に参加しました。震災から1年半を経てもなお続く復興への道のりですが、移動中に見える風景からは様々な活動に励まれている姿が映り、現地の方々と作業をする中で見えた、今ある現状に真摯に向き合われている姿に、感慨深い想いで2日間の活動を終えました。今回の経験を活かし、任国のの方々へ日本の復興の様子を伝え、任国のの方々と同じ向き合い活動することで、両国のより良い関係を築いてくれることを期待しています。